

令和7年度

事業報告書

社会福祉法人 福岡ケアサービス

ケアハウス「桜ガーデン生の松原」(ケアハウス)  
グループホーム「安養」(認知症対応型共同生活介護)  
福岡ケアサービス・ヘルパーステーション(訪問介護事業)

グループホーム「花安養」(認知症対応型共同生活介護)  
共用型デイサービス花安養(共用型認知症対応型通所介護)

特別養護老人ホーム 初花(介護老人福祉施設)  
ショートステイサービス 初花(短期入所生活介護)

福岡 100 プラザ西(管理運営)

令和7年度においても、地域における高齢者の生活継続支援を目的として、介護サービスの質の向上に資する基盤整備および体制強化に努めました。地域包括ケアシステムの推進に対応し、多職種連携の強化とサービス品質の向上に取り組みました。特に当年度には、下山門拠点におけるグループホームの増床を実施するとともに、既存スペースを活用した共用デイサービスの指定および運営開始により、サービス提供体制の拡充を図りました。さらに、「福岡100プラザ西」に続き、次年度は更に「福岡100プラザ中央」の指定管理を受託することが出来、将来を見据えた基盤拡充については、一定の成果を上げることができました。

しかしながら、物価および光熱水費の高騰が事業運営に大きな影響を与えており、公定価格である介護報酬に依拠する事業構造の中では、これらのコスト増を価格転嫁することが困難であり、厳しい経営環境が継続しています。このため、引き続き職員一人ひとりのコスト意識の醸成と、効率的な事業運営（ローコストオペレーション）の推進が求められます。

人材確保については、グループホーム増床に伴い新たに新規スタッフの採用、確保も課題はありましたが何とかクリアし、全体的な職員の定着率・長期就業率には改善が見られています。ただし、人材不足は依然として続いており、今後も人材確保・育成および職場環境の改善に取り組む必要があります。

再度に、サービスの多様化に伴い、入所系・居住系サービスにおける待機者減少が進んでおり、経営面への影響も見られます。今後も選ばれる施設づくりと利用しやすい環境整備を推進してまいります。

#### 〈報告事項〉

##### (1) 生産性の向上に向けた体制整備

ICT、介護ロボット等の有用性を確認しつつ、新たな機器等の導入を行いました。但し、導入、活用が一部の事業所に留まっていることから、更なる活用も検討していきます。

個別支援の実施及び徹底を図ることで、ケアの手順の標準化など図りました。

##### (2) 魅力ある職場づくり・働きやすい職場づくり

業務改善、生産性の向上に努めるため委員会の設置等を一部の事業所では行いましたが、さらに推進するための法人一丸となり取り組みを引き続き行っていきます。

ICT、気顎ロボット等の活用などを通し、業務の効率化、業務負担の軽減など生産性の向上に努めました。

介護職員等処遇改善の仕組みを活用し、中長期的な就労継続の見通しが出来る体制整備に努めました。

##### (3) 感染症や災害に備えた事業継続体制の構築及び地域ネットワークの推進

感染等の有事の備え、法人、拠点区分ごとの事業継続計画（BCP）の実施、既作成している計画の見直しを行いました。

有事に備えた体制の検討を行いましたが、導入までには至らず引き続き検討を行っていきます。

##### (4) 多様な人材の確保及び育成に関する取り組みを推進していきます。

受け入れ態勢の確認や特定技能受け入れ支援機関との連携により、特定技能、留学生等の外国人雇用につなげることが出来ました。

介護人材の養成校等の及び高等学校等との連携に努めました。

##### (5) 職場環境改善への取り組みの推進

拠点、事業所ごとに定期的な設備点検を行う事による事業所環境の維持に努めました。

光熱水費等の状況をシステム導入による定期的に把握し、ローコストオペレーションに努めました。

### 【令和7年度 内部研修実績】

月	目的	内容	講師 他	参加
4月	運営体制の整備と確認	職業倫理と法令遵守	事業部長	18人
6月	サービスの質の確保と向上	感染症対策研修（実技含む）	感染症対策委員会	27人
8月	サービスの質の確保と向上	身体拘束・介護事故	リスクマネジメント委員会	17人
9月	サービスの質の確保と向上	認知症ケアについて	動画（アンケート）	63人
2月	サービスの質の確保と向上	感染症対策研修	感染症対策委員会	19人
2月	運営体制の整備と確認	介護事故・緊急時対応	リスクマネジメント研修	63人

### 【令和7年度 外部研修実績】（参加延べ人数 32名 前年度 28名）

日時	研修名	主催	人数
4月16日	認知症介護基礎研修（オンライン）	認知症介護研究研修仙台センター	1人
5月31日	知って得する 訪問看護	西福岡病院	1人
6月10日	精神疾患の診断のある利用者の支援	長寿社会開発センター	1人
6月13日	接遇研修	福岡市社会福祉協議会	1人
6月18日	ノーリフティング研修（実技研修）	NPO 法人福祉用具ネット	2人
6月20日	感染症予防研修	福岡市社会福祉協議会	1人
6月27日	西区在宅多職種連携研修会	ハートネット病院	1人
7月14日	アンガーマネジメント研修	福岡市	1人
7月24日	福祉レクリエーション研修	福岡市社会福祉協議会	1人
8月15日	日本人の食事摂取基準（2025年度版）の給食施設における活用について（オンライン）	福岡市保健所	1人
9月10日	ストレスマネジメントの実践	長寿社会開発センター	1人
9月22日	認知症ケア研修	福岡市	1人
10月	医療との連携のコツ（オンライン）	福岡市	1人
10月21日	アセスメントの重要性（オンライン）	福岡市	1人
11月1日	高齢者の権利擁護と成年後見制度（オンライン）	福岡市	1人
11月4日	給食施設の衛生管理について（オンライン）	福岡市保健所	1人
11月15日	施設サービスでの看取り（オンライン）	福岡市	1人
11月18日	感染症への対策と発生時の対応（オンライン）	福岡市	1人
11月18日	高齢者施設におけるサービス提供のあり方について	福岡市老人福祉施設協議会	1人
11月25日	認知症の医学的知識（オンライン）	福岡市	1人
11月26日	人権研修	福岡市社会福祉協議会	1人
11月26日	介護福祉士実習指導者講習会	福岡市	1人
11月29日	ご利用者の安全対策・急変時の対応（オンライン）	福岡市	1人
12月1日	排せつ介助研修（オンライン）	福岡市	1人
12月1日	介護保険施設における介護事故	福岡市	1人
12月7日	介護現場におけるBCP（オンライン）	福岡市	1人
12月11日	高齢者虐待について	福岡市	1人
1月～3月	認知症介護実践リーダー研修	福岡市	1人
2月14日	加齢性嚥下障害に対する食事支援（オンライン）	福岡市保健所	1人
3月6日	給食における衛生管理のポイント（オンライン）	福岡市保健所	1人
3月23日	成年後見制度	西区地域包括支援センター	1人

※ノーリフティングケア普及促進マネジメント研修（3名）隔月開催

※新規職員入職時研修（身体拘束廃止・事故防止・虐待防止・感染症・BCP）を実施

※無資格等の職員に対しての認知症介護基礎研修の受講（入職後1年以内の受講義務）

# 令和7年度事業報告書

事業所名：ケアハウス桜ガーデン生の松原

## 1. 全体状況

令和7年度の入居状況は概ね月々50名ペースで推移しましたが、年間通じての100%維持は未達であった。但し待機者は年間通じて15名前後と、例年に比して問い合わせが増え、昨今の外部への周知活動の効果とともに、「ホームページを見た」という声や「周囲に勧めてもらった」という声を聞くことも増え、安定した待機者維持と今後の入居稼働率100%を見据えることができる状態である。

次に退居者について今年度は7名。退居理由は、外部の介護施設入居が4名、民間アパート転居が1名、ご家族との同居が1名、ご逝去1名という内訳で、前年度と比較すると若干減少した。

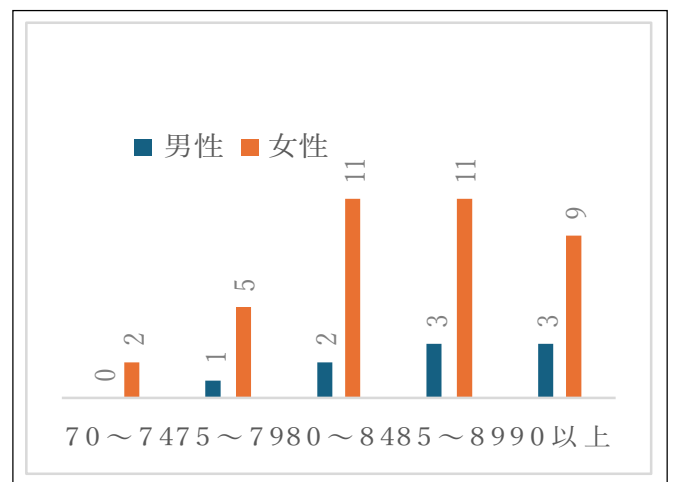
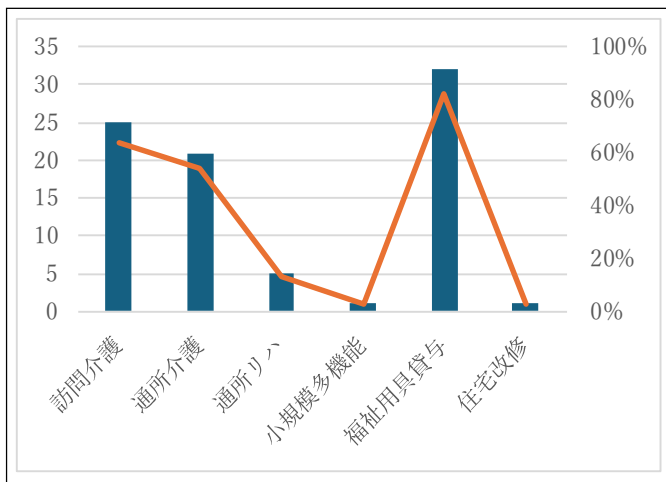
ケアハウスの入居者は年々高齢化しており、要支援又は要介護を受けている方が約8割にのぼり、『入居者の日常生活に支障をきたさない』『ケアハウスで生活を継続する』ために、必要に応じて速やかに介護保険等のサービスにつながるよう今後とも取り組んでまいります。

最後に、ケアハウスのご入居者にとっての生活が満足できるよう取り組みを進めていくために、定期的に入居者懇談会や、ご意見箱などの設置をもって幅広くご意見、ご要望を受け止めるよう心がけております。

## 2. 運営状況

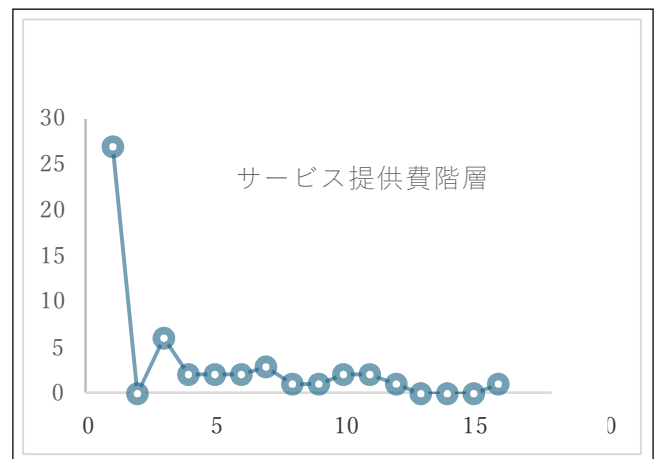
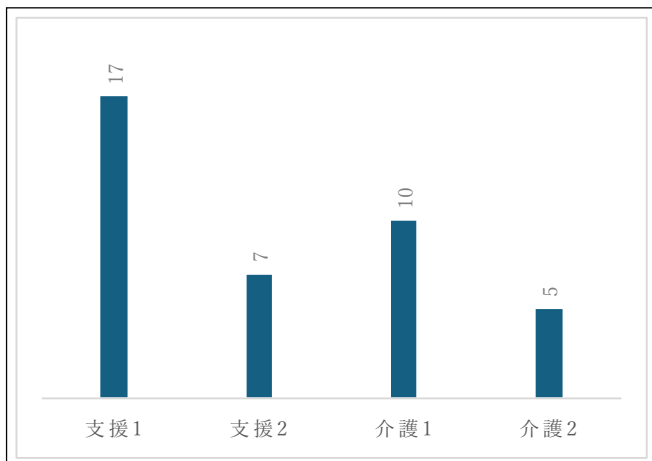
【図1 男女・年齢比】（平均84.2歳 最低67 最高96歳）

【図2 サービス種類別利用状況】（N値39）



【図3 要介護認定者割合 78%←76%】（予防62%介護38%）

【図4 サービス提供費階層別】



# 令和7年度事業報告

事業所名：グループホーム安養

## 1. 全体状況

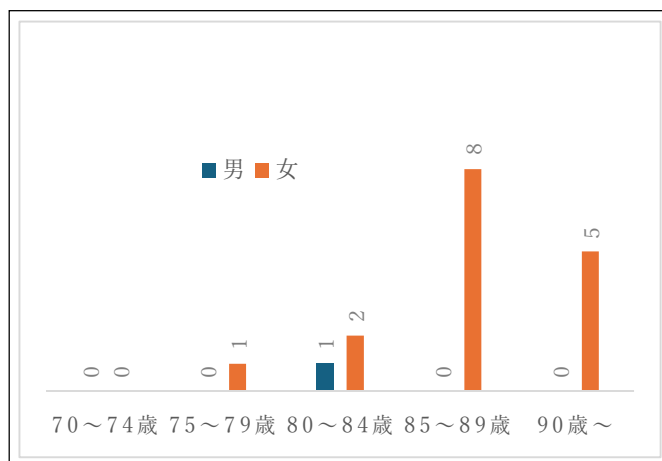
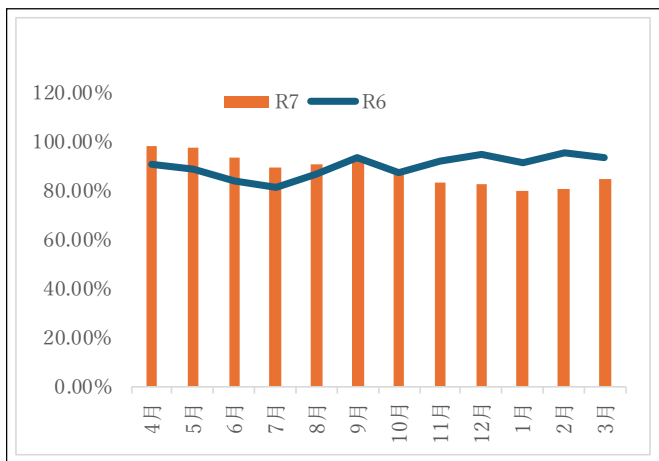
今年度も積極的にご家族を交えての植物園への外出や敬老会、外食の支援等入居者とご家族との時間を持てるよう工夫を行い実施することが出来ました。入居者の希望だけでなく、ご家族とも話をし、個別に支援することが出来、入居者様に寄り添うケアが出来たと思います。

数人の看取りのご入居者だけでなく、怪我やご病気で医療的ケアが必要になり退院できなかつた方も多く、ご入居者の入れ替わりがスムーズにいかないこともありました。今後も怪我や病気の予防に努めるだけでなく、外部に向けた営業等も行っていきたいと思ひます。

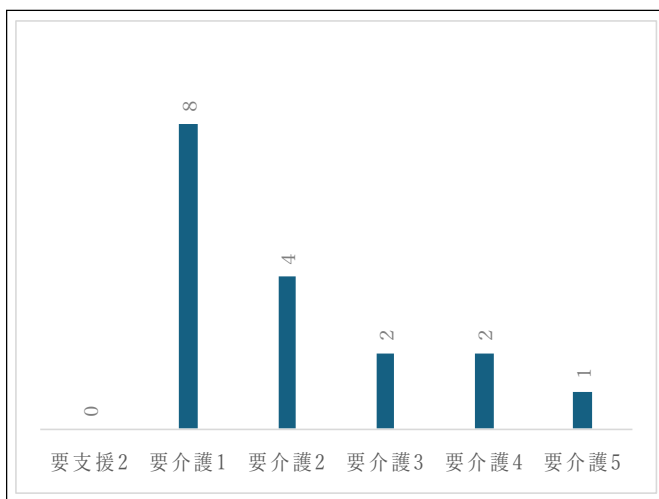
また職員の定着が難しい現状でしたが、派遣スタッフ等を活用しながら対応してきました。また必要に応じてジョブローテーションを行い、何かあれば相談できる環境を整えていきたいと思ひます。また少しずつ他ユニットの職員の入れ替えを行いどちらのフロアでも働ける職員をつくれるよう努めています。

## 2. 運営状況

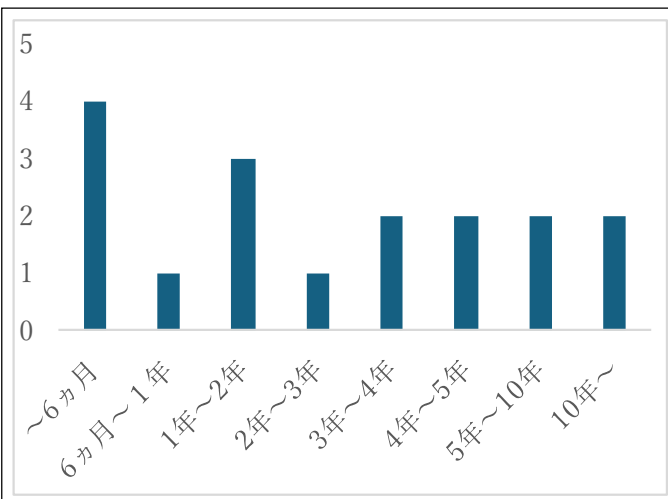
【図1 年間稼働率（88.66%）推移 前年比98.4%】 【図2 男女・年齢比】（平均88.1最低78最高98）



【図3 要介護度別内訳】（平均介護度2.05←2.16）



【図4 在所期間】（最長在所期間：13年2か月）



# 令和7年度事業報告書

事業所名：福岡ケアサービス・ヘルパーステーション

## 1. 全体状況

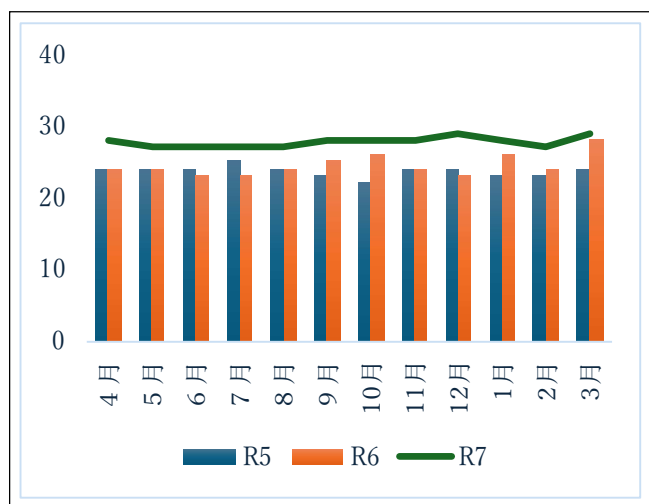
令和8年度に事業所更新の控えていたため、書類や記録の漏れが無いように整備を行い運営指導に備えた。介護サービスについては例年どおりケアハウス入居者の支援増を念頭に取り組み、居宅支援事業所への支援内容の提案と見直しを行ったが、年度末頃から入院や施設入所に伴う利用終了が相次ぎ収入は前年比 87.5%となり、低調な実績となった。

ここ数年の課題であるヘルパーの高年齢化については、改善すべくヘルパー募集を行ったが、採用できた職員は高齢で訪問介護についての理解を得られず指導の難しさを痛感した。しかし、年度末に新たに非常勤パート職員を採用することができたため、今後は内・外問わず積極的に利用者を受け入れていきたい。

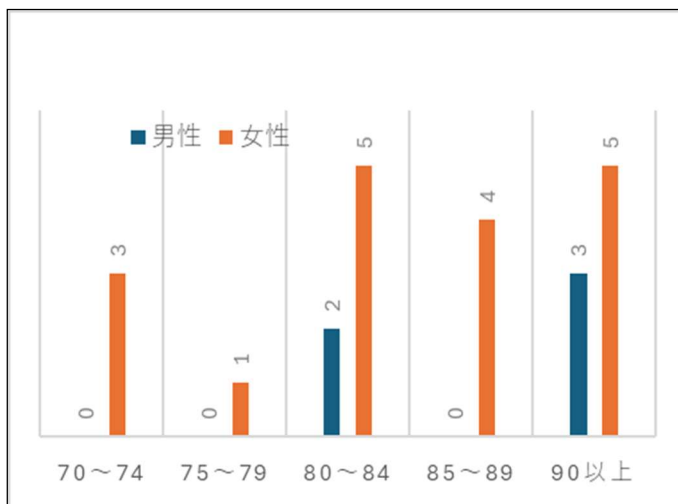
また、次年度も引き続き利用者獲得と加算の継続、利用単価の底上げと人材育成を行いながら法人内事業所との連携・協力に取り組んでいきたい。

## 2. 運営状況

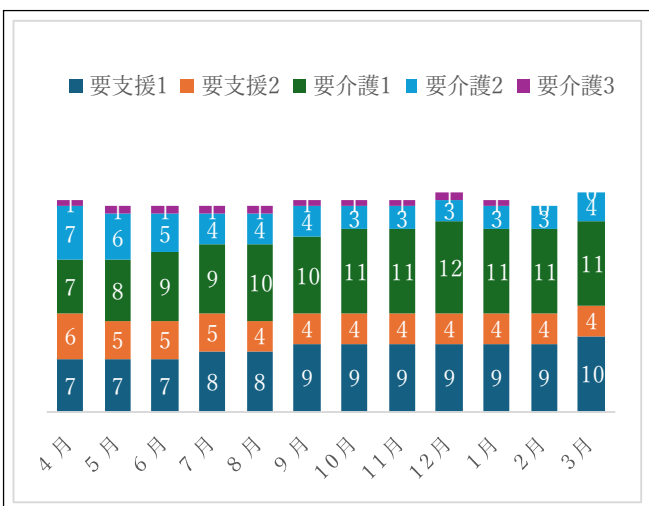
【図1 年間実績推移 前年比 113%】



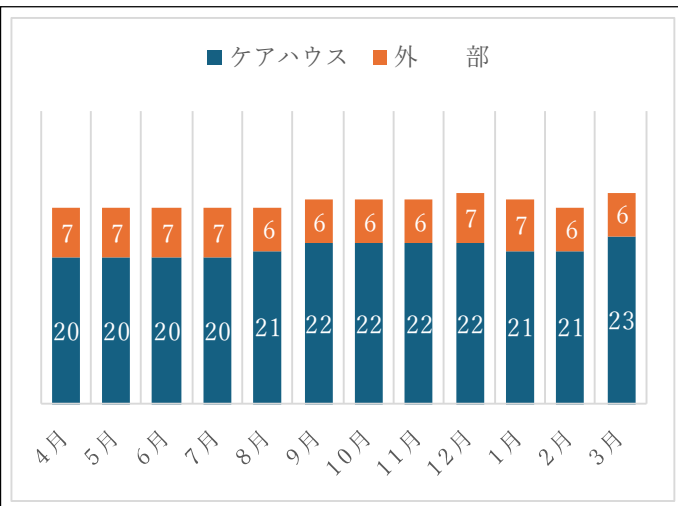
【図2 男女・年齢比】（平均 83.64 最低 70 最高 98）



【図3 月次要介護内訳比率 53.7%←46.4%】



【図4 内部連携率 76%←68%】



# 令和7年度事業報告

事業所名：グループホーム花安養

## 1. 全体状況

令和7年4月から新規ユニット（定員18名→27名）、同年12月から共用型デイサービス（定員3名）がそれぞれ立ち上がり、例年よりも職員、入居者ともに人の動きが多くあった。年間を通して既存ユニットの退去が続いたことや、即応的に対応が難しい場合など重なり、年間で満床に至ることはなかった。

入退去の状況については退去者13名で1名が在宅復帰、3名が看取り、4名が他施設への転居、5名が入院先での逝去であった。待機者がいないこともあり申し込みから入居までは数日～2週間程度が一番多く、最長は4カ月であり、例年に比して短期間で入居に結びつけることはできたかと思われる。

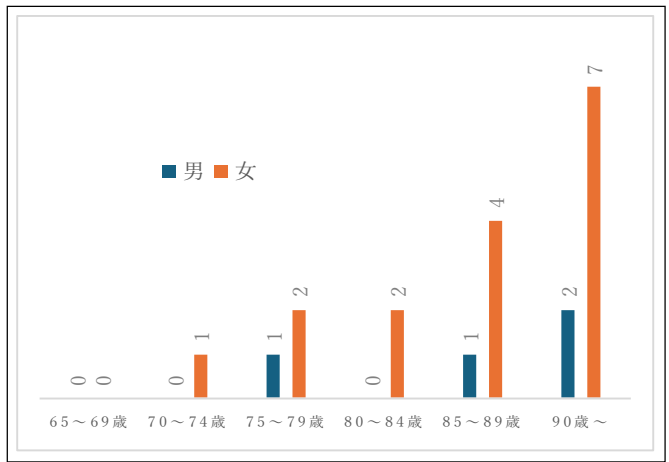
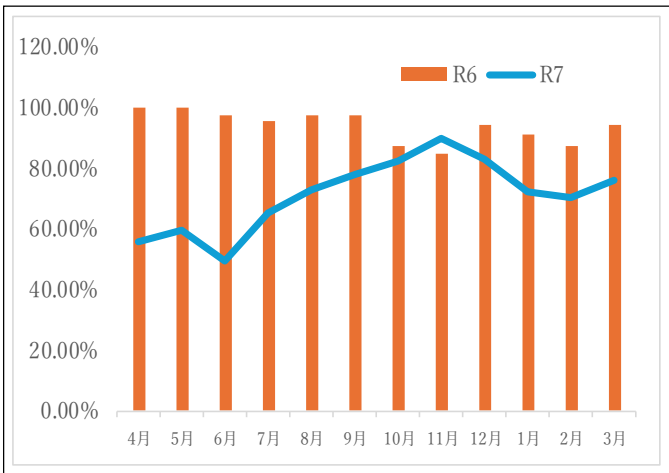
なお、今年度はユニット合同行事や個別での外出（買い物やドライブなど）を例年より多く提供し、地域社会との関わりを持つ機会を増やすことが出来ました。

必要な法定研修（感染、身体拘束/虐待、BCP 関連）は法人研修と自施設研修両方で実施し、下山門拠点として独自にガバナンス構築にも努めました。

## 2. 運営状況

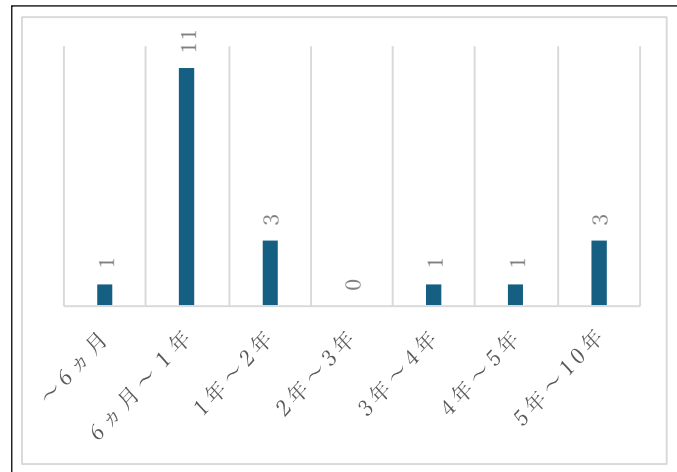
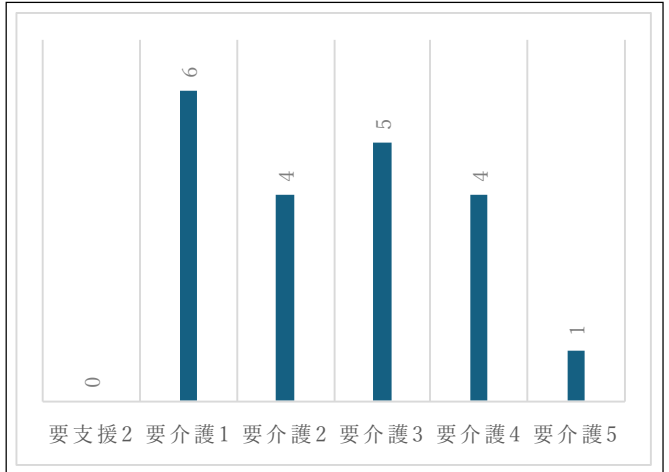
【図1 年間稼働率（71.21%）推移 19.2/27】

【図2 男女・年齢比】（平均87歳 最低74最高99）



【図3 要介護度内訳】（平均介護度 2.5←2.6）

【図4 在所期間】（最長在所期間：7年）



# 令和7年度事業報告書

事業所名 特別養護老人ホーム 初花

## 1. 全体状況

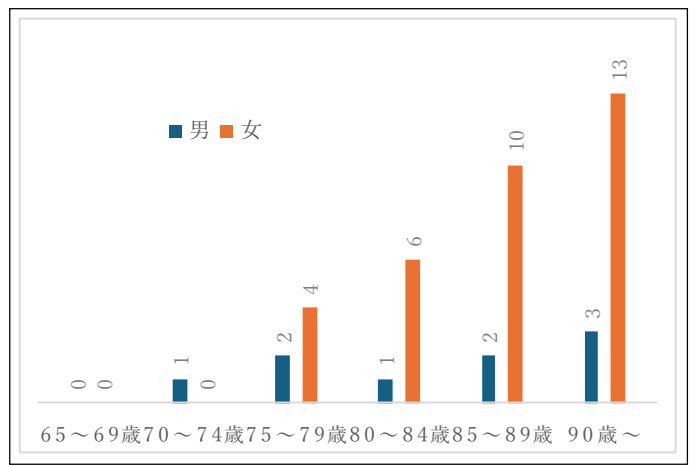
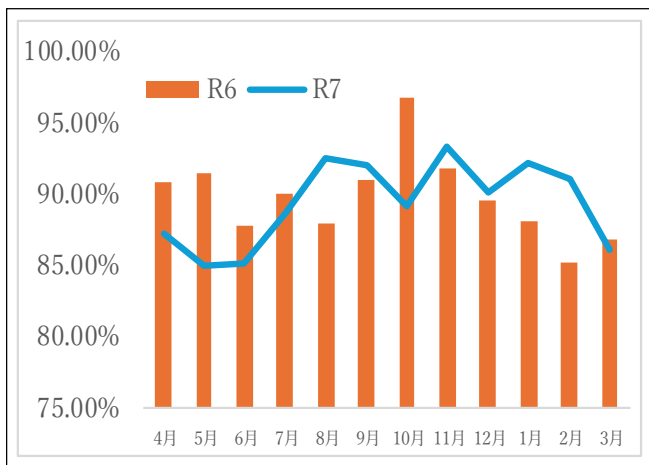
令和7年度は、介護サービスの質の向上と生産性の向上を目標に掲げ、取り組みを進めてまいりました。特に当該年度には運営指導や事業所更新の手続きなども入り、運営体制の棚卸や確認が出来ました。

但し、本年度も昨年度同様、24名の退去、24名の入退去者の入れ替わりが激しく（年間の入院件数54件（日数1463日）と長期の入院、入院からの退去等の件数も多い）、年間稼働率も9割を切り、それに伴う間接業務の増加、事務負担感の増加は顕著となりました。なお最近の傾向として入所待機期間の短縮化や待機者数の減少（待機者12名）という状況は近隣の施設でも同様の状況があるようで、入所施設として今後、とりわけより速やかな受け入れが出来る体制及び関係機関との連携、速やかな受け入れ態勢の構築は欠かせないものと思われまます。また本年度も、介護DX補助金を活用し、入浴介護補助機器や移乗支援機器等の導入を行い、介護現場の負担軽減並びにサービスの質の向上のための体制整備を行いました。併せて現在、誤嚥性肺炎プロジェクト、ノーリフティングケアの取り組みを進めていることもあり、深化を向ける段階に来ておりますので、引き続き取り組みを深め取り組んでいく予定です。

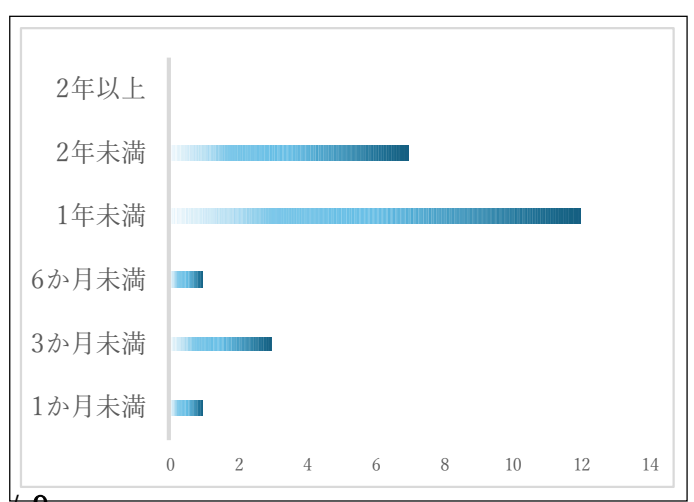
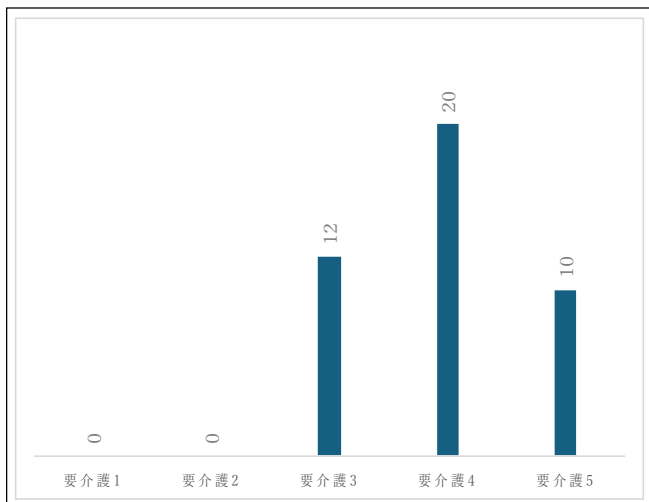
年間を通じて、働きやすい、働き甲斐がある職場づくりに向け推進してまいりました。

## 2. 運営状況

【図1 年間稼働率（89.36%）推移 前年比99.6%】 【図2 男女・年齢比】（平均86.92歳 最低74 最高97）



【図3 要介護度内訳】（平均介護度 3.95←4.11） 【図4 待機期間別新規入居者数】（年度内申込 27名）



## 令和7年度事業報告書

事業所名 福岡100プラザ西

令和7年度は、リニューアル工事に伴い、年間の約半分を代替施設で事業実施するという特殊な運営環境であった。工事期間中は、既存事業を可能な限り継続することを最優先とし、利用者数の減少を抑えることに注力した。また、リニューアルオープン後は、福岡100プラザの認知度向上と新規利用者の獲得に重点的に取り組んだ。工事期間中は、シニア教室、高齢者創作講座、プラザ企画講座等の実施場所の確保や、日々の運営サポートに人的・時間的資源を優先的に投入した。その結果、ほぼ全ての講座を予定どおり実施し、出席者数についても概ね維持することができた。一方で、単発型のプラザ企画講座や交流事業については、実施場所の確保が難しく、一部事業を実施できない状況も生じた。

利用者総数については、令和6年度比1.2倍となる約20,000人を目標としていたが、令和7年度実績は令和6年度とほぼ同水準となった。しかしながら、長期間にわたる代替施設運営という厳しい条件下において、利用者数を維持できたことは一定の成果であったと考える。

**成果① 広報業務の積極的推進**

「オリジナルホームページの立ち上げ」「リーフレット等を活用した周知活動」「公式LINEアカウント友だち登録者数500名以上」を推進策として掲げた。

しかしながら、工事期間中は代替施設の確保や各種教室運営への対応を優先せざるを得ず、人的・時間的余裕が不足したため、オリジナルホームページの立ち上げには至らなかったが、公式LINEアカウントについては、積極的な周知活動を行った結果、登録者数は目標を大きく上回る680名超となり、情報発信ツールとして一定の基盤を構築することができた。

**成果② ニーズの把握と地域連携ネットワークの構築**

リニューアル工事期間中は、福岡市西部地域交流センター、西市民センター、西区社会福祉協議会、西陵地区及び下山門団地地区自治会等との関係構築に注力し、地域に住むシニア世代・プレシニア世代のニーズ把握に努めた。特に、各地域の高齢者ニーズを把握している西区社会福祉協議会との関係性を構築できたことは、今後、プラザ西が地域に根差した事業を展開していく上で大きな成果となった。

リニューアル後は、玄洋地区、壱岐南地区、西都地区の公民館や人権のまちづくり館等へと連携範囲を広げており、地域ネットワークが徐々に形成されつつある。

**成果③ コーディネーターの積極活用**

リニューアル工事期間中は、コーディネーターの派遣がなかったため、相談対応や訪問同行等の実施はできなかったが、工事前から良好な関係性を築いていたことから、リニューアル後は、地域に埋もれている人材情報の収集や、高齢者の社会参加を促進するイベント施策について積極的に連携・相談を行った。

その結果、スタンバイ登録者による令和8年度プラザ企画講座の実施や、「マインドフルネス講座」等の共同事業実施につながるなど、具体的な成果を得ることができた。

**成果④ リニューアルオープニングイベントの実施**

福岡市所管課、各教室関係者、地域団体等との綿密な打合せや準備を重ね、限られた人的・時間的資源の中でイベント運営に取り組んだ。その結果、当初目標としていた参加者200名を大幅に上回る507名の来場を達成した。リニューアル工事対応と並行した厳しい運営状況を踏まえると、非常に大きな成果であり、リニューアル後の施設周知及び地域とのつながり強化に大きく寄与したと考える。